

:: 指定管理者制度導入施設 モニタリング・シート ::

評価年月日: 平成30年8月3日

1 基本事項	
公の施設の名称	相模大野駅北口自転車駐車場ほか7施設
指定管理者の名称	南区市営駐車場運営共同企業体
指定期間	平成27年4月1日～平成32年3月31日
施設設置条例の名称	相模原市営自転車駐車場条例、相模原市営自転車駐車場条例施行規則 相模原市営自動車駐車場条例、相模原市営自動車駐車場条例施行規則
施設の設置目的	自転車駐車場: 駅周辺における自転車及び原動機付自転車の駐車秩序を確立し、自転車及び原動機付自転車を利用する者の利便を図る。 自動車駐車場: 中心市街地の道路の円滑化を図り、市民の利便に資するとともに、都市機能の維持及び増進に寄与する。
施設概要	相模大野北口自転車駐車場・谷口北口自転車駐車場・谷口南口自転車駐車場 相模大野駅西側自転車駐車場・相武台前駅北口自転車駐車場 相模大野立体駐車場・小田急相模原駅自動車駐車場・相模大野駅西側自動車駐車場
施設所管課の名称	都市建設局 まちづくり事業部 都市整備課

2 管理実績						
自転車駐車場						
項目(単位)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
利用者数合計(台)	3,762,612	3,769,185	3,703,050	3,761,026		
利用料金合計(円)	181,740,970	182,226,390	178,791,700	179,949,690		
利用率(%)	90.6	94.0	93.0	94.9		
自動車駐車場						
項目(単位)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
利用者数合計(台)	596,126	1,182,279	1,202,278	1,092,775		
利用料金合計(円)	293,091,760	547,594,180	556,323,280	531,164,300		
修正回転率	2.89	3.17	3.07	2.94		

利用者数合計は年間利用延べ台数(二輪自動車は除く)

修正回転率(1日1駐車スペース当たりの駐車時間)

= 単純回転率(1日1駐車スペース当たりの回転率) × 平均駐車時間(1日1台当たりの駐車時間)

H27年度より西側自動車駐車場が加わり、自動車駐車場3施設となった。

3 成果指標の達成度	
自転車駐車場	
指標名(単位)	自転車駐車場利用率(%)
指標式と指標の説明	(自転車及び125cc以下バイク利用許可台数) ÷ 自転車駐車場収容台数

項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値(単位)	90.0	89.7	90.0	90.3		
実績値(単位)	90.6	94.0	93.0	94.9		
達成度(%)	100.7%	104.8%	103.3%	105.1%		

施設の設置目的や施策の達成度を客観的に評価するため、指定管理者の募集において示した成果指標。

自動車駐車場	
指標名(単位)	年間利用台数(二輪自動車を除く)
指標式と指標の説明	年間利用台数を目標とし運営状況を確認する

項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値(単位)	629,000	1,080,000	1,084,000	1,088,000		
実績値(単位)	596,126	1,182,279	1,202,278	1,092,775		
達成度(%)	94.8%	109.5%	110.9%	100.4%		

施設の設置目的や施策の達成度を客観的に評価するため、指定管理者の募集において示した成果指標。
H27年度より西側自動車駐車場が加わり、自動車駐車場3施設となった。

4 評価		
指標名(単位)	評価	コメント
施設の設置目的の達成度	A	自転車駐車場の達成度が105.1%、自動車駐車場が100.4%である。
事業・業務の履行状況	S	事業・業務は適正に履行されている。
利用者満足度の向上度	S	利用者満足度調査においては総合的に満足との回答が93.6%であり、目標値80%を上回っている(達成度は117%)。満足との回答を個別に評価すると、接遇は97.1%、施設の管理状態については95.4%、施設の使い易さ・わかりやすさについては88.0%である。
財務状況の適正性	B	予算の執行状況については、年間執行額において不足ではあるが、本社等から繰入れをしており、特段の課題は無い。

【施設の設置目的の達成度】の評価基準

モニタリングシート(3 成果指標の達成度)における“達成度”の内容について、次の基準により評価する。

- S: 当該年度の達成度が110%以上
- A: 当該年度の達成度が100%以上110%未満
- B: 当該年度の達成度が90%以上100%未満
- C: 当該年度の達成度が80%以上90%未満
- D: 当該年度の達成度が80%未満

【事業・業務の履行状況】の評価基準

- モニタリング基礎シート(様式1)における“評価”の内容について、次の基準により評価する。
 S:全ての評価項目に「 」または「 」がつき、「 」の数が評価項目の総数の3分の2以上である。
 A:全ての評価項目に「 」または「 」つき、「 」の数が評価項目の総数の3分の2未満である。
 B:全ての評価項目が「 」である。
 C:「 」と「 」のどちらもつかない項目が1つある。
 D:「 」と「 」のどちらもつかない項目が2以上ある。

【利用者満足度の向上度】の評価基準

- 主な指標と目標値(参考資料 2)における“達成度”の内容について、次の基準により評価する。
 S:当該年度の達成度が110%以上
 A:当該年度の達成度が100%以上110%未満
 B:当該年度の達成度が90%以上100%未満
 C:当該年度の達成度が80%以上90%未満
 D:当該年度の達成度が80%未満

【財務状況の適正性】の評価基準

- 予算の執行状況表(様式2)の内容について、次の基準により評価する。
 S:評価対象年度の決算において、収入が支出を上回っており、かつ選考委員会による意見として本体の経営状況に「特段の課題はない」とされた場合
 A:評価対象年度の決算において、本社等からの繰入れを行って(収支が一致している。予定外の自主事業等へ対応した場合を除く)、選考委員会による意見として本体の経営状況に「特段の課題はない」とされた場合
 B:評価対象年度の決算において、本社等からの繰入れを行って(予定外の自主事業等へ対応した場合を除く)、選考委員会による意見として本体の経営状況に「特段の課題はない」とされた場合
 C:評価対象年度の決算において、本社等から繰入れを行っている(予定外の自主事業等へ対応した場合を除く)、または選考委員会による意見として本体の経営状況に「若干の懸念がある」とされた場合
 D:評価対象年度の決算において、本社等から繰入れを行って(予定外の自主事業等へ対応した場合を除く)、選考委員会による意見として本体の経営状況に「重大な懸念がある」とされた場合
 「財務状況の適正性」の項目については、グループ全体としての評価とする。(複数の施設をグルーピングしている場合のみ)

客観的評価として以上の基準によりS～Dを判定し、選考委員会の意見を踏まえて調整することも可能とする。

5 施設所管課による総合評価

コメント	<p>南区グループは小田急線相模大野駅と小田急相模原駅と相武台前駅の3駅周辺の7施設の指定管理を行っており、各駐車場間で連携を図り、効率的な運営を行っている。</p> <p>自転車駐車場においては3区の中で最も収容台数が多く、利用者も多いが、事故は少なく、安全に重点を置いて管理していることがわかる。マナー啓発活動を実施し未施錠件数の減少に努め、防犯カメラの増設・大型化しているバイクや電動アシスト自転車などの駐車スペースを引き続き確保・工夫するなど、利用者の目線に立った管理・運営を行っている点で評価でき、利用者の満足度も高い駐車場運営となっている。</p> <p>自動車駐車場については、伊勢丹A館・B館の閉館や駐車場サービスの変更の影響により、相模大野立体駐車場の利用者は減少しているが、隣接する商業施設等のイベントが開催される際に混雑することもある。しかしながら、今年度も大きな事故やトラブルも無かったことから、円滑な管理運営が図られている。また、今年度は場内が暗いという指摘を受け、照明の一部をLED化し、利用者の要望に沿った駐車場運営をしていることも評価できる。</p> <p>H27年度より自転車・自動車駐車場の管理運営を構成企業でそれぞれを担当しているが、今後構成企業間での連絡体制をより密に行うこと、また、再委託をする際には最低賃金を遵守するよう、引き続き配慮いただきたい。</p>
------	--

6 指定管理者選考委員会による評価

評価実施日	平成30年8月3日
コメント	<p>南区グループは小田急線相模大野駅と小田急相模原駅と相武台前駅の3駅周辺の8施設の指定管理を行っており、各駐車場間で連携を図り、効率的な運営を行っている。</p> <p>自転車駐車場については、市と協議を行い、利用者のニーズに合わせ、大型化しているバイクや自転車の駐車スペースを確保するなど、利用者の目線に立った管理・運営を行っている点や、利用者が多いに関わらず事故は少なく、安全に重点を置いて管理している点は評価できる。</p> <p>自動車駐車場については、大きな事故やトラブルも無く円滑な管理運営が図られているが、相模大野立体駐車場については、照明の一部LED化することで、節電や老朽化により場内が全体的にやや薄暗い印象があるとの利用者の要望に対応している点は評価できる。また、相模大野立体駐車場の利用者数については、近隣商業施設の状況に左右されるため、本年度の減少はやむを得ないものと思われるが、引き続き商業施設と連携をする等、利用促進に取り組んでもらいたい。</p> <p>今後は、一定の利用者を確保するため、利用者の意見を反映させる等、魅力ある施設としての管理運営を行うと共に、企業間での連絡体制を密に、管理運営に活かせる体制を確立していただきたい。</p>